

徳島県環境白書の刊行に当たって

私たちが生活を営む上で、地球温暖化をはじめとする環境問題は今や避けて通れない問題です。生態系の変化、緑の減少や気温の上昇など、既に身近なところで環境の変化は起こっており、今のままでは、この美しい地球を将来に残していくことが困難になる可能性があります。この美しい地球で私たち自身が生活していくため、そして何より、この素晴らしい地球環境を将来の世代に引き継いでいくために、私たちは最大限の力を注いでいく責任があります。

昨年11月から12月にかけて、メキシコにおいて、気候変動枠組条約第16回締約国会議及び京都議定書第6回締約国会合が開催され、地球温暖化対策に関する国際的な枠組みについての話し合いが行われました。一方我が国では、世界に先駆け、温室効果ガス排出量を2020年までに1990年比で25%削減するとの目標を掲げ、昨年からは、オフィスや家庭などにおいて実践できるCO₂削減に向けた具体的な行動を「6つのチャレンジ」として提案し、その実践を広く国民の皆様によびかける「チャレンジ25キャンペーン」を実施するなど、持続可能な社会の実現に向けた取組みが進められております。

本県においても、「環境の世紀」をリードする「環境首都とくしま」の実現を県政の基本目標に掲げ、地球温暖化対策やゴミ減量化等の環境活動を一元的にバックアップするとともに、環境学習・教育を総合的にサポートするため、昨年4月に開設した「環境首都とくしま創造センター(エコみらいとくしま)」を中心に、「徳島夏・冬のエコスタイル」、「エコみらいリーダー養成事業」や「レジ袋ゼロの日社会実験」など、「普及・啓発」の段階から「実践・行動」の段階へと、産学民官の連携・協働による各種の取組みを積極的に展開しております。

また、本県の強みであるLED、リチウムイオン電池などの「環境先端技術」や、本県に豊富に存在する「豊かな森林資源」などを最大限に活用した、「とくしま新成長戦略(グリーンニューディール)推進事業」や「緑の分権改革推進事業」といった「徳島ならではの」施策を推進し、環境の保全・創造はもとより、本県経済の振興・発展や雇用の創出、さらには地域の活性化を図って参ります。

私たちが世界に誇れる「環境首都とくしま」を実現していくためには、県民・事業者・民間団体など各主体の取組みが必要不可欠であります。本書を通じ、県民の皆様が本県の環境問題に対し認識を深めていただき、本県の環境の保全・創造の取組みをさらに進めるための一助となれば幸いです。

平成23年3月

徳島県知事 **飯泉 嘉門**